

KDDI エボルバ、「MCPC award 2019」モバイルビジネス賞を受賞 復興支援に取り組む栽培拠点、AI で水やり・追肥、ミニトマト出荷量 2.4 倍へ

株式会社 KDDI エボルバ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：中澤雅己、以下 KDDI エボルバ）の農産物栽培拠点「[幸満つる郷 KDDI エボルバ 野蒜](#)^{※1}（宮城県東松島市、以下、幸満つる郷）」による AI 灌水施肥（かんすいせいび）システムを活用したミニトマト栽培の取組みが、2019年11月28日開催の「MCPC^{※2} award 2019」において、モバイルビジネス賞を受賞しました。

「MCPC award」は、「ユーザー部門」と「プロバイダー部門」から成り、モバイルシステム導入により「業務効率化」、「業績向上」、「顧客満足度向上」、「社会貢献の推進」、「先進的なモバイル活用」などの成果を上げた事例を顕彰し、モバイルソリューション、IoT/M2M システムのさらなる普及促進を図るものです。



左 MCPC 会長 安田靖彦氏



左 KDDI エボルバ代表取締役副社長 佐藤司
右 幸満つる郷 所長 稲葉浩

このたび受賞した『AI 灌水施肥システムによるアグリテックの取組み』は、農産物栽培を通じて復興支援と障害者雇用創出に取り組む「幸満つる郷」において、IT 活用による「農産物の収量と味（品質）の向上」および、IT と人の分業による「自動化と人手による作業重点化実現」を目的に、2019年6月より開始しました。

■ 幸満つる郷によるアグリテックの取組みと効果

<実施策>

- AI 灌水施肥システム「ゼロアグリ^{※3}」導入による IoT 栽培管理および、水やり・追肥の完全自動化
- ミニトマト生育状態を遠隔監視・管理する屋外クラウド録画パッケージ導入
- ビニールハウス内の日射量を自動調整する遮光カーテン導入

<効果>

AI と IoT による栽培管理、水やり・追肥の自動化、IT と人の分業による効率化で、品質、収穫量、食味、果肉サイズを向上、収穫時期短縮、栽培データの可視化等を実現

- **出荷数前年比 2.4 倍、収穫時期 1 週間短縮**
- **IT で数値化された適切な量の水やり、追肥の自動供給**および、人の手による芽欠き、枝の誘引等の作業時間を十分に確保し、**食味、品質、サイズ向上**へ
- 47℃超ビニールハウス内の**熱中対策**による、**最適な生育環境**および、**社員の健康・安全を確保**
- IT による**栽培データの集積**、農作物の**安定収穫と栽培ノウハウの蓄積**

KDDI エボルバは、今後も、幸満つる郷における農産物栽培や販売、コミュニティ拠点活動を通じて、東松島市の復興支援および、地方創生、障害者雇用推進に取り組んでまいります。



AI 灌水施肥システム「ゼロアグリ」



AI/IoT で水やり・追肥を完全自動化



AI/IoT によるミニトマト栽培・ビニールハウス（圃場）

◎注釈

- ※1. 「幸 満つる郷 KDDI エボルバ野蒜」は、復興への想いをカタチにするため、宮城県東松島市野蒜地区での農産物栽培・販売を通じて、地元の障害者雇用と地方創生に取り組んでいます。社員の笑顔を大切に、ひとつひとつの「つながり」を大切に、積極的にチャレンジしています。<https://www.k-evolva.com/recruit/challenged/nobiru/>
- ※2. MCPC（モバイルコンピューティング推進コンソーシアム）は、業界の枠を越えてモバイルコンピューティング、IoT/M2M システムを普及促進することを目的とし、1997年に発足した任意団体です。
- ※3. ゼロアグリ概要は、2019年6月1日発表「[東松島市で農業 IoT「ゼロアグリ」導入](#)」をご参照ください。

本リリース本文中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

■株式会社 KDDI エボルバ について

本 社 : 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-23-7 新宿ファーストウエスト
設 立 : 1996年5月
代表者 : 代表取締役社長 中澤 雅己
資本金 : 1億円 (KDDI 株式会社 100%出資)
事業内容 : コンタクトセンターを中心とした BPO(Business Process Outsourcing)事業
企業 URL : <https://www.k-evolva.com/>